発表論文

<2023>

200. Yamasaki, K., & Uchida, K. (2023). Development of a questionnaires to assess self-esteem in the teaching profession. *Journal of Education and Training Studies*, *11*(4), 1-7.

199. 山崎勝之 (2023). 「本当の自己肯定感」の正体と育み方　指導と評価，69, 29-31.

198. 山崎勝之 (2023). 日本の学校教員の自己肯定感と教職享受感を高める 鳴門教育大学学校教育研究紀要，37, 35-44.

197. 山崎勝之(2023). 「いじめ」問題とその解決　鳴門教育大学研究紀要，38, 16-33.

<2022>

196. Yamasaki, K. Yokoshima, T., Noguchi, D., & Uchida, K. (2022). Can “autonomous self-esteem” be assessed and cultivated? *International Journal of Psychology and Behavioral Sciences*, *12*(2), 18-24.

195. 山崎勝之 (2022). 「不登校」の問題とその解決　鳴門教育大学研究紀要，*37*, 30-45.

194. 山崎勝之 (2022). 愛着と虐待　学校教育研究紀要，*36*, 111-121.

193. Yamasaki, K., Yokoshima, Y., & Uchida, K. (2022). Effectiveness of a school-based universal prevention program for enhancing autonomous self-esteem: Utilizing an implicit association test as an assessment tool. *School Health*, *17*, 20-28.

<2021>

192. 原田美代子・山崎勝之・内田香奈子 (2021). 自然を活用した保育 ―研究の課題と展望― 環境教育、*31*, 74-84.

191. 賀屋育子・山崎勝之・横嶋敬行・内田香奈子 (2021). 他律的セルフ・エスティームが学校における心理的ストレス反応に及ぼす影響―小学校 4 年生から 6 年生を対象にした予測的研究　パーソナリティ研究, *29*, 191-203.

190. 山崎勝之 (2021). 幼少期から青年期までの健全な発達の道すじを築く，新しい組織と活動　鳴門教育大学研究紀要，*36*, 24-33.

<2020>

190. 山崎勝之 (2020). 鳴門教育大学「予防教育科学センター」 公認心理師, No. 2, 106-111.

189. 山崎勝之 (2020). 根幹となる心の特徴と機能から自己有用感を考える　徳島教育,

1196, 6-8.

188. 横嶋 敬行, 内山 有美, 内田 香奈子, 山崎 勝之 (2020). 子ども用の Rosenberg Self-Esteem Scale（RSES）が測定する小学生の自尊感情の多側面 ―Self-Esteem の適応的側面と不適応的側面に着目して― 学校保健, *62*. 187-193.

187. 横嶋敬行・大上遊路・賀屋育子・山崎勝之 (2020). 児童用のタブレット PC 版セルフ・エスティーム潜在連合テストの開発 感情心理学研究, 27,61-66.

186. 山崎勝之 (2020). 大学ならびに大学院における「公認心理師養成」のグランドデザイン 鳴門教育大学研究紀要, *35*, 39-52.

185. 横嶋敬行・影山明日香・賀屋育子・内田香奈子・山崎勝之 (2020). ユニバーサル予防教育「自律的セルフ・エスティームの育成」プログラムの効果 ―小学校５年生を対象とした教育効果の検証― 学校教育研究紀要, *34*, 77-84.

184. 賀屋育子・道下直矢・横嶋敬行・内田香奈子・山崎勝之 (2020). 「自律的セルフ・エスティーム」を育成するユニバーサル予防教育の開発 学校教育研究紀要, *34*, 47-54.

<2019>

183. Yamasaki, K. (2019). Why do researchers and educators still use the Rosenberg Scale? Alternative new concepts and measurement tools for self-esteem. *Journal of Psychology and Behavioral Science*, *7*, 74-83.

182. 賀屋 育子・横嶋 敬行・内田 香奈子・山崎 勝之 (2019). 児童版のコンピテンス領域別の他律的セルフ・エスティーム尺度の開発 パーソナリティ研究, *28*, 54-66.

181. 山崎勝之 (2019). 公認心理師としての学校予防教育から教育臨床へのかかわり方 鳴門教育大学学校教育研究紀要, *33*, 85-94.

180. 山崎勝之・横嶋敬行・賀屋育子・内田香奈子 (2019). 自律的ならびに他律的セルフ・エスティーム潜在連合テストの刺激語の構成 鳴門教育大学研究紀要, *34*, 1-9.

179. 横嶋敬行・賀屋育子・内田香奈子・山崎勝之 (2019). 児童用の簡易版セルフ・エスティーム（SE）潜在連合テストの開発の構想 ―自律的ならびに他律的 SE を同時に測定する, 紙筆版とタブレット PC 版の測定法開発に関する理論― 鳴門教育大学学校教育研究紀要, *33*, 141-148.

<2018>

178. 賀屋 育子・山崎 勝之・横嶋敬行・内田 香奈子 (2018). 新しい学校予防教育―本当

の bien-être の育成を目指して―　日仏教育学会年報，25, 44-54.

177. 山崎勝之・横嶋敬行・賀屋育子・山口悟史・内田香奈子　（2018）．他律的（随伴性）セルフ・エスティームの概念と測定法　鳴門教育大学研究紀要，*33*, 1-15.

176. 山崎勝之・内田香奈子・横嶋敬行・賀屋育子・道下直矢 (2018). 「自律的セルフ・エスティーム 」を育成するユニバーサル予防教育の教育目標の確立と授業方法の開発方針 鳴門教育大学学校教育研究紀要，*32*, 91-100.

175.　横嶋敬行・山口悟史・賀屋育子・内田香奈子・山崎勝之 (2018). 児童用の紙筆版セルフ・エスティーム潜在連合テストー実施の手順と採点方法の詳細の紹介，そして課題順序カウンターバランスの削除可能性の検討ー　鳴門教育大学学校教育研究紀要，*32*, 101-100.

174. 賀屋育子・山口悟史・横嶋敬行・内田香奈子・山崎勝之　(2018). 児童用の他律的（随伴性）セルフ・エスティーム尺度の開発　ー尺度の信頼性と妥当性の検討，そして教育への適用の考察ー　教育実践学論集，*19*, 1-12.

173. 横嶋敬行・賀屋育子・内田香奈子・山崎勝之（2018）．ユニバーサル学校予防教育「自己信頼心（自信）の育成」プログラムの効果ー児童用紙筆版セルフ・エスティーム潜在連合テストを用いた教育効果の検討ー　学校保健研究, *60*, 5-17.

〈2017〉

172. Yamasaki, K., Uchida, K., Yokoshima, T., & Kaya, I. (2017). Reconstruction of the conceptualization of self-esteem and methods for measurement: Renovating self-esteem research. *International Journal of Psychology and Behavioral Sciences*, *7*, 135-141.

171. Yamasaki, K., Umakoshi, A., & Uchida, K. (2017). Efficacy of a school-based universal program for bullying prevention: Considering the extended effects associated with achievement of the direct purposes of the program. *International Journal of Social Science Studies*, *5*, 1-8.

170.　内田香奈子・山崎勝之 (2017). 学校予防教育プログラム“感情の理解と対処の育成”ー 小学校５年生における授業内容について ー　鳴門教育大学研究紀要，*32*, 20-79.

169.　山崎勝之・横嶋敬行・内田香奈子 (2017). 「セルフ・エスティーム」の概念と測定法の再構築　　鳴門教育大学研究紀要，32, 1-19.

168. 横嶋敬行・内山有美・内田香奈子・山崎勝之 (2017). 児童用の紙筆版自尊感情潜在連合テストの開発　教育実践学論集，*18*, 1-13.

〈2016〉

167. Yamasaki, K., & Uchida, K. (2016). Relationships between affect and short-term life satisfaction: Considering the activation dimension and balance of affect. *International Journal of Social Science Studies*, *4*, 34-40.

166. Yamasaki, K., & Uchida, K. (2016). Effects of positive and negative affect on depression: Considering the activation dimension and balance of affect. *International Journal of Psychology and Behavioral Sciences*, *6*, 139-147.

165. 横嶋敬行・村上祐介・内田香奈子・山崎勝之（2016）. ユニバーサル学校予防教育「自己信頼心（自信）の育成」プログラムの効果―小学校３年生を対象にし，教育目標達成後の波及効果を考慮して―　教育実践学論集, *17*, 11-23.

164. 山崎勝之・内田香奈子・横嶋敬行 (2016). 無意識と意識，そして，インプリシット心的特徴　鳴門教育大学研究紀要，*31*, 1-18.

163. 内田香奈子・横嶋敬行・山崎勝之 (2016). 児童用インプリシット感情尺度（IPANAT-C）の改善　－信頼性と妥当性の再検討－　鳴門教育大学研究紀要，*31*, 19-28.

162. 村上祐介・賀屋育子・山崎勝之　(2016). 学校予防教育プログラム TOP SELF「向社会性の育成」　鳴門教育大学研究紀要，*31*, 121-135.

161. 永井明子・山崎勝之 (2016). 児童の関係性攻撃適正化を目指す教育的介入の開発に向けて　－基礎研究からそのあり方をデザインする－　プール学院大学研究紀要, *1*, 305-320.

〈2015〉

160. Yamasaki, K., Murakami, Y., Yokoshima, T., & Uchida, K. (2015). Effectiveness of a school-based universal prevention program for enhancing self-confidence: Considering the extended effects associated with achievement of the direct purposes of the program. *International Journal of Applied Psychology*, *5*, 152-159.

159. Yamasaki, K., & Uchida, K. (2015). The effects of affect balance on depression and short-term life satisfaction: Considering the activation dimension of affect. *Asian Journal of Humanities and Social Studies*, *3*, 367-375.

158. Noma, T., Uchida, K., & Yamasaki, K. (2015). Development of a shokuiku program for elementary school children and evaluation of its intervention effects. *Journal of Japanese Society of Shokuiku*, 9, 1, 53-65.

157. Yamasaki, K., & Uchida, K. (2015). Unconscious factors may be more important than

conscious factors in school education: Development of a new type of prevention education for children's health and adjustment and assessment of its effectiveness. *Research Bulletin of Naruto University of Education*, *30*, 16-23.

156. 内田香奈子・山崎勝之　(2015).　学校予防教育プログラム“感情の理解と対処の育成”－小学校 6 年生における授業内容について－　鳴門教育大学研究紀要，*30*, 180-242.

155. 賀屋育子・内田香奈子・山崎勝之（2015).　学校予防教育プログラム”感情の理解と対処の育成”　－小学5年生での実施と効果－　鳴門教育大学学校教育研究紀要，*29*, 53-61.

〈2014〉
154. 山崎勝之　(2014).「新しい学校予防教育　－子どもを守り育てる総合教育－」　いしかわ精神保健　第 55 号別冊 1-20.

153. Uchida, K., Yamasaki, K., & Megumi, S. (2014). Attractive, regularly-implementable universal prevention education program for health and adjustment in schools: An Innovation from Japan. *Procedia – Social and Behavioral Sciences*, *116*, 754-764.

152. Yamasaki, K., & Uchida, K. (2014). Cross-sectional research using new measures on the effects of positive and negative affect (PA and NA) and emotional suppression on depression and hort-term life satisfaction: Considering the activation dimension of affect and suppression of PA and NA. *Research Bulletin of Naruto University of Education*, *29*, 15-23.

151. 山崎勝之・内田香奈子・村上祐介（2014). 予防教育科学に基づく「子どもの健康と適応」のための学校予防教育における評価のあり方　－無作為化比較試験への準備としての現段階の評価－　鳴門教育大学学校教育研究紀要，28, 39-45.

150. 内田香奈子・福田衣利子・山崎勝之（2014). 児童用インプリシット感情（affect）測定方法の開発　－質問紙の原型の開発と信頼性・妥当性の最初の検討－　鳴門教育大学研究紀要，29, 160-168.

149. 村上祐介・山崎勝之（2014). 学校予防教育プログラム TOP SELF「自己信頼心（自信）の育成」　－小学校 6 年生での実施と効果の検討－　鳴門教育大学研究紀要，29, 169-183.

148. 山崎勝之･内田香奈子（2014). 学校予防教育の普及への方途と課程　鳴門教育大学学校教育研究紀要，28, 47-53.

147. 安藤有美・山崎勝之（2014). 学校予防教育プログラム TOP SELF「自己信頼心（自身）の育成」 －中学１年性での実施と効果－ 鳴門教育大学学校教育研究紀要, 28, 87-96.

〈2013〉

146. 山崎勝之 (2013). いじめ問題の本当の解決は「予防教育」にある 信濃教育，1523, 11-21.

145. 山崎勝之 (2013). 本当の「いじめ予防教育」は始まっている 教育と医学，725, 64-73.

144. 山崎 勝之 (2013). いじめ予防は本質を見つめて ―新しい学校予防教育の展開 児童心理，972, 107-110.

143. 貴志知恵子・山崎勝之 (2014). 大学生への「一次救命手当」の効果に関する研究－学習効果と自尊感情，向社会的行動に及ぼす影響について－徳島文理大学研究紀要

142. 貴志知恵子・工藤友紀・山崎勝之 (2014). ピア・サポートを活用した野菜摂取を促す取り組みについて－小学生を対象とした介入研究－ 小児保健とくしま，9，31−36.

141. 内田香奈子・山崎勝之 (2013). 女性における感情表出コーピングが抑うつに及ぼす影響の予測的研究 －感情表出のシグナリング機能に着目して− 健康心理学研究，*26*, 18-27

140. 内田香奈子・山崎勝之 (2013). 学校予防教育プログラム“感情の理解と対処の育成”－小学校３年生における授業内容について－ 鳴門教育大学研究紀要，*28*, 224-284.

139. 佐々木恵・山崎勝之 (2013). 学校において自己信頼心（自信）を育成するユニバーサル予防教育 －教育プログラムの実際－ 鳴門教育大学研究紀要，*28*, 169-223.

138. 山崎勝之・佐々木 恵・内田香奈子 (2013). トップ・セルフ 「いのちと友情」の学校予防教育 －教育方法の特徴－ 鳴門教育大学学校研究紀要，*27*, 23-30.

137. 安田小響・佐々木 恵・山崎勝之 (2013). 学校予防教育プログラム TOP SELF「自己信頼心（自信）の育成」 －小学４年生での実施と効果－ 鳴門教育大学学校研究紀要，*27*, 59-68.

136. 福田衣利子・内田香奈子・山崎勝之 (2013). 学校予防教育プログラム TOP SELF「感情の理解と対処の育成」 －小学６年生での実施と効果－ 鳴門教育大学学校研究紀要，*27*, 69-78.

〈2012〉

135. 三浦浩美・山崎勝之 (2012). 児童期の健康・適応に及ぼす正負感情易感性と感情表出性の影響　学校保健研究，*54*, 404-411.

134. 貴志知恵子・山崎勝之 (2012). 大学生への喫煙防止教育の効果について　ースライドとグループ活動を通してー　小児保健とくしま，*20*, 12-16.

133. 貴志知恵子・内田香奈子・山崎勝之 (2012). 正感情と認知的再解釈コーピングの関連にいて　ー高校生における抑うつ予防プログラム構築のための基礎研究ー　小児保健研究，*71*, 259-266.

132. 石本雄真・勝間理沙・山崎勝之 (2012). TOP SELF ベース総合教育「向社会性の育成」における目標構成　鳴門教育大学教育大学研究紀要，*27*, 296-310.

131. 松本有貴・山崎勝之 (2012). トップ・セルフ，ベース総合教育（構成）上位目標「ソーシャル・スキルの育成」―大目標「自律性の育成・対人関係性の育成」を実現するための目標構成―　鳴門教育大学教育大学研究紀要，*27*, 273-295.

130. 内田香奈子・山崎勝之 (2012). 学校予防教育プログラム“感情の理解と対処の育成”鳴門教育大学教育大学研究紀要，27, 154-168.

129. 佐々木恵・山崎勝之 (2012).　学校において自己信頼心（自信）を育成するユニバーサル予防教育　―教育目標の構成とそのエビデンス―　鳴門教育大学教育大学研究紀要，27, 141-153.

128. Yamasaki, K., Sasaki, M., & Kanako, U. (2012). Effects of positive and negative affect and emotional suppression on short-term life satisfaction and depression. *Research Bulletin of Naruto University of Education*, *27*, 1-11.

127. 津田麻美・勝間理沙・山崎勝之　(2012). 学校におけるいじめ予防を目的としたユニバーサル予防教育　―教育方法の開発とその実践―　鳴門教育大学学校教育研究紀要，*26*, 9-17.

126. 山崎勝之・佐々木恵・内田香奈子・松本有貴・石本雄真　(2012). 学校予防教育の革新　―なぜ, これまでの教育が通用しないのか―　鳴門教育大学学校教育研究紀要, *26*, 1-8.

〈2011〉

125. 三浦浩美・勝間理沙・山崎勝之 (2011). 児童期における感情表出尺度日本語版の開発　小に保健研究，*70*, 646-651

124. 内田香奈子・貴志知恵子・山崎勝之（2011）. 高校生の感情表出によるストレス・コ

ーピングが抑うつに及ぼす影響　学校保健研究，*53*, 127-134.

123. 桾本知子・山崎勝之（2011）．対人ストレスユーモアコーピングが敵意，意識的防衛性と抑うつに及ぼす影響 心理学研究，*82*, 9-15.

122. Yamasaki, K., Sasaki, M., Uchida, K., & Katsuma, L. (2011). Effects of positive and negative affect and emotional suppression on short-term life satisfaction. *Psychology, Health & Medicine*, *16*, 313-322.

121. 三浦浩美・山崎勝之（2011）．感情表出性について　ーその概念と研究の動向，そして子ども感情研究への展望ー　香川県立保険医療大学雑誌，*2*, 799-86.

120. 山崎勝之・佐々木恵・内田香奈子・勝間理沙・松本有貴 (2011). 予防教育科学におけるベース総合教育とオプショナル教育　鳴門教育大学研究紀要，*26*, 1-19.

119. 山崎勝之・佐々木恵・内田香奈子・勝間理沙・松本有貴 (2011). 予防教育科学に基づく「子どもの健康と適応」のためのユニバーサル予防教育における評価のあり方　鳴門教育大学学校教育研究紀要，*25*, 29-38.

118. 松本有貴・吉見摩耶・山崎勝之（2011）．　学校における喫煙予防を目的としたユニバーサル教育　ー教育目標の構成とそのエビデンスー　　鳴門教育大学研究紀要，*26*, 186-200.

117. 勝間理沙・津田麻美・山崎勝之（2011）. 学校におけるいじめ予防を目的としたユニバーサル予防教育　ー教育目標の構成とそのエビデンスー　鳴門教育大学研究紀要，*26*, 171-185.

116. 吉見摩耶・松本有貴・山崎勝之（2011）.　学校における喫煙予防を目的としたユニバーサル教育 ー試行段階としての教育方法の開発とその実践ー鳴門教育大学学校教育研究紀要, *25*, 61-69.

〈2010〉

115. 貴志知恵子・内田香奈子・山崎勝之　(2010). 正感情・負感情と認知的再解釈コーピングが抑うつに及ぼす影響について ー高校生を対象とした予測的研究ー　学校保健研究，*52*, 390-397.

114. Yamasaki, K., Uchida, K., & Katsuma, L. (2010). Re-examination of the effects of the “finding positive meaning” coping strategy on positive affect and health. *Psychologia*, *53*, 1-13.

113. 内田香奈子・勝間理沙・後藤博子・板東敦子・永瀬幸子・貴志知恵子・山崎勝之（2010).

学校における生活習慣改善のための教育方法についての考察と開発 鳴門教育大学学校教育研究紀要，*24*, 55-62.

112. 内田香奈子・岡元義彦・濵紀子・加茂直子・貴志知恵子・山崎勝之（2010）. 対人コミュニケーションスキル向上を目指したユニバーサル予防教育の開発と効果の検証 －高校生を対象としたアサーション･トレーニングを中心に－ 鳴門教育大学学校教育研究紀要, *24,* 63-72.

111. 勝間理沙・山崎勝之（2010）. 児童期の関係性攻撃　－教育現場における予防的アプローチ実践への示唆－　鳴門教育大学学校教育研究紀要，*24,* 1-10.

110. 山崎勝之・内田香奈子（2010）. 学校における予防教育科学の展開 鳴門教育大学研究紀要，*25,* 14-30.

109. 桾本知子・山崎勝之（2010）. 対人ストレスユーモア対処尺度（HCISS）の作成と信頼性，妥当性の検討 パーソナリティ研究，*18*，96-104.

〈2009〉

108. 貴志知恵子・内田香奈子・山崎勝之　(2009). 正感情と心身の健康との関連
－高校生を対象とした横断的研究－　学校保健研究，*51*, 151-161.

107. Yamasaki, K., Uchida, K., & Katsuma, R. (2009). An intervention study of the effects of the coping strategy of “finding positive meaning” on positive affect and health. *International Journal of Psychology*, *44*, 249-256. DOI: 10.1080/00207590701750912.

106. Yamasaki, K., & Nishida, N. (2009). The relationship between three types of aggression and peer relations in elementary school children. *International Journal of Psychology, 44.* 179-186. DOI: 10.1080/00207590701656770.

〈2008〉

105. 勝間理沙・山崎勝之（2008）. 児童における３タイプの攻撃性が共感に及ぼす影響 心理学研究，*79*, 325-332.

104. Yamasaki, K., Uchida, K., & Katsuma, L. (2008). An intervention study of the relations of positive affect to the coping strategy of “finding positive meaning” and health. *Psychology, Health & Medicine*, *13*, 597-604. DOI: 10.1080/13548500801983033.

103. 勝間理沙・山崎勝之　(2008). 児童の関係性攻撃における自己評定と仲間評定の比較 心理学研究，*79*, 263-268

102. 内田香奈子・山崎勝之　(2008). 大学生の感情表出によるストレス・コーピングが抑うつに及ぼす影響の予測的研究　パーソナリティ研究，*16*, 378-387.

101. Uchida, K., & Yamasaki, K. (2008). Social support mediating between emotional expression coping and depression. *Psychological Reports*, *102*, 144-152.

100. 山崎勝之　(2008). 正感情，コーピング，そして健康の関係におけるこれまでの研究知見とその考察　－正感情とコーピングを操作介入因子とした健康増進介入の可能性－ 鳴門教育大学研究紀要，*23*, 14-42.

99. 桾本知子・山崎勝之（2008）．大学生における敵意と抑うつの関係に意識的防衛性が及ぼす影響　パーソナリティ研究，*16*, 141-148.

〈2007〉
98. 勝間理沙・山崎勝之（2007）．児童における３タイプの攻撃性が正負感情に及ぼす影響 パーソナリティ研究，*16*, 47-55.

97. 内田香奈子・山崎勝之 (2007). 大学生用感情コーピング尺度の作成ならびに信頼性，妥当性の検討 パーソナリティ研究，*16*, 100-109.

96. Yamasaki, K., Nagai, A., & Uchida, K. (2007). A longitudinal study of the relationship between affect and both health and lifestyle.　*Psychologia*, *50*, 177-191.

95. Sasaki, M., & Yamasaki, K. (2007). Stress coping and the adjustment process among university freshmen. *Counselling Psychology Quarterly*, *20*, 51-67.

〈2006 年〉
94. 内田香奈子・山崎勝之　子どものうつ病と学校における予防的介入のあり方　鳴門教育大学学校教育研究紀要，*21*, 21-30.

93. Yamasaki, K., Katsuma, R., & Sakai, A. (2006). Development of a Japanese version of the PANAS-C.　*Psychological Reports*, 99, 535-546.

92. Yamasaki, K., & Uchida, K. (2006). Relation of positive affect with emotion-focused coping in Japanese undergraduates. *Psychological Reports*, *98*, 611-620.

91. 内田香奈子・山崎勝之　(2006). 大学生の感情表出によるストレス・コーピングが抑うつに及ぼす影響　学校保健研究，48, 199-208.

90. 倉掛正弘・山崎勝之　(2006). 小学校クラス集団を対象とするうつ病予防教育プログラ

ムにおける教育効果の検討　教育心理学研究，54, 384-394.

89. 山崎勝之　(2006). ポジティブ感情の役割　ーその現象と機序ー　パーソナリティ研究，14, 3, 305-321.

88. Yamasaki, K., Sakai, A., & Uchida, K. (2006). A longitudinal study of the relationship between positive affect and both problem- and emotion-focused coping strategies. *Social Behavior and Personality: An International Journal*, *34* (5), 499-510.

87. Yamasaki, K., & Fujii, S. (2006). Health intervention protocols for lifestyle disease prevention in Japanese elementary school children. *Research Bulletin of Naruto University of Education*, *21*, 1-12..

86. 内田香奈子・山崎勝之　(2006). 感情コーピング尺度（状況版）の作成と信頼性，妥当性の検証　美作大学・美作大学短期大学部紀要，51, 17-24.

〈2005 年〉

85. Yamasaki, K., & Matsumura, T. (2005). Prevention of youth violence: Development of a universal prevention program at school. Bulletin of Research Center for School Education (Naruto University of Education), 20, 11-20.

84. Sasaki, M., & Yamasaki, K. (2005). Dispositional and situational coping in mental health status of university students. *Psychological Reports*, *97*, *797-809.*

83. 山崎勝之・内田香奈子　(2005). 調査研究における質問紙の作成過程と適用上の諸問題　鳴門教育大学研究紀要，20, 1, 1-10.

82. 坂井明子・山崎勝之　(2004).　児童の攻撃性と適応および健康　美作大学・美作大学短期大学部紀要，50, 1, 1-6.

〈2004 年〉

81. Yamasaki, K., & Oka, Y. (2004). An educational intervention program to reduce aggressiveness in elementary school children: A description of the program and its effects during two months of follow-up. Japanese Research of Morality Psychology, 18, 15-20.

80. 坂井明子・山崎勝之　(2004). 小学生における３タイプの攻撃性が攻撃反応の評価および結果予期に及ぼす影響　教育心理学研究，52, 3, 298-309.

79. 玉木健弘，山崎勝之　2004 中学生の攻撃性，社会的情報処理過程ならびにストレス反応の関連性　学校保健研究，46, 3, 242-253.

78. 坂井明子，山崎勝之　2004 小学生用 P-R 攻撃性質問紙の作成と信頼性，妥当性の検討

心理学研究，75，3，254-261.
77.谷　真弓，山崎勝之　2004　児童用外的統制質問紙（ＧＥＱＣ）の作成と信頼性，妥当性の検討　パーナリティ研究，13，1，1-10.
76.坂井明子，山崎勝之　2004　攻撃性の細分化と形成過程　　美作大学・美作大学短期大学部紀要，49，1，1-7
75.山崎勝之，坂井明子，内田香奈子　2004 敵意関連性格とストレス反応の関係に及ぼすソーシャル・サポートの影響　　鳴門教育大学研究紀要，19,15-23
74.佐々木　恵,山崎勝之 2004 敵意と健康状態の因果関係における状況的コーピングの媒介機能　健康心理学研究，17，1，1-9.

<2003 年>
73.山崎勝之　2003　健康影響因としての性格･行動研究におけるタイプＡの功罪　タイプＡ，14，1，23-24.
72.斉藤剛，山崎勝之　2003 中学生の対人ストレスを低減するための学校教育プログラムー教育プログラムの作成と教育効果の検討ー　教育実践学研究，4，1，9-16.
71.椙本知子，山崎勝之　2003 敵意が血圧と抑うつに及ぼす影響―意識的防衛性の役割―心理学研究，74，2，171-177.
70.佐々木　恵,山崎勝之　2003 わが国の大学生における健康教育の現状と課題　　教育実践学論集，4，1，9-19.
69.坂井明子,山崎勝之 2003 小学生における３タイプの攻撃性が抑うつと学校生活享受感情に及ぼす影響　学校保健研究，45，1，65-75.
68.山崎勝之，坂井明子，内田香奈子 2003 敵意関連性格とストレス反応の関係に及ぼすソーシャル・サポートの影響　鳴門教育大学研究紀要教育科学編，19，1，15-23.
67.玉木健弘，山崎勝之，松永一郎 2003 小学生用攻撃性質問紙(GAQC)の作成と信頼性および妥当性の検討　徳島文理大学研究紀要，66，1，19-26.
66.佐々木　恵，山崎勝之 2003 敵意と健康状態の因果関係とストレス・コーピング　ヘルスサイコロジスト(日本健康心理学会ニューズレター)，32，2-3.
65.坂井明子,山崎勝之 2003 小学生における攻撃性得点の分類基準ー小学生用 P-R 攻撃性質問紙による３種類の攻撃性についてー　美作女子大学・美作女子大学短期大学部紀要 48，101-106.

<2002 年>
64.大芦　治，曽我祥子，大竹恵子，島井哲志，山崎勝之 2002 児童の生活習慣と敵意・攻撃性との関係について　学校保健，44，2，166-180.
63.佐々木恵,山崎勝之　2002 日本版 Buss-Perry 攻撃性質問紙の因子構造ならびに大学生における攻撃性と精神健康の因果関係の検討　学校保健研究，43，6，474-481.
62.佐々木恵，山崎勝之　2002 コーピング尺度（ＧＣＱ）特性版の作成および信頼性・妥当性の検討　　日本公衆衛生雑誌，49，5，399-408.
61.椙本知子，山崎勝之 2002 意識的防衛性質問紙（ＣＤＱ）の作成と妥当性，信頼性の検討 心理学研究，73，4，332-339.

60.佐々木恵,山崎勝之 2002 敵意と健康状態の因果関係ならびにその媒介過程としてのストレス・コーピングの検討　健康心理学研究，15，2，1-11.
59.Yamasaki, K., & Fujii, S. 2002 Effectiveness of a health promotion education intervention program to prevent lifestyle diseases in elementary school children. International Journal of Behavioral Medicince, 9, 1, 299.
58.山崎勝之 2002 すぐ「疲れた」と言うようになったら　児童心理，56，5，46-51.
57.玉木健弘，山崎勝之，松永一郎 2002　中学生用攻撃性質問紙（ＡＱＳ－Ｔ）の作成と信頼性および妥当性の検討　徳島文理大学研究紀要，64，1，7-14.
56.山崎勝之　(2002).　日本における性格研究の動向と展望　教育心理学年報，41，73-83.

<2001 年>
55.Nishi, N., Nanto, S., Shimai, S., Mtsushima, Y., Otake, K., Ando, A.,Yamasaki, K., Soga, S., Tatara, K.　2001 Effects of hostility and lifestyle on coronary heart disease among middle-aged urban Japanese. Journal of Epidemilogy, 11, 6, 243-248.
54.山崎勝之，坂井明子，曽我祥子，大芦治，島井哲志，大竹恵子 2001 小学生用攻撃性質問紙(HAQ-C)の下位尺度の再構成と攻撃 性概念の構築　鳴門教育大学研究紀要,16, 1-10.

<2000 年>
53.Yamasaki, K., Kasai,Y.　2000 An educational program to reduce aggressiveness of children in elementary-school classes.　International Journal of Psychology, 35, 3.4. 261.
52.坂井明子，山崎勝之，曽我祥子，大芦治，島井哲志，大竹恵子　2000 小学生用攻撃性質問紙の作成と信頼性，妥当性の検討　学校保健研究，42，5，423-433.
51.大竹恵子，島井哲志，曽我祥子，宇津木成介，山崎勝之，大芦治，坂井明子，西信雄，松島由美子，嶋田洋徳，安藤明人　2000 日本版 Muller Anger Coping Questionnaire(MAQ)の作成と妥当性・信頼性の検討　感情心理学研究，7，1，13-24.

<1999 年>
50.山崎勝之　1999　タイプＡ性格･行動と心身の健康　－医学的ならびに心理学的アプローチの統合－　タイプＡ，10，1，51-53.
49.安藤明人，曽我祥子，山崎勝之，島井哲志，嶋田洋徳，宇津木成介，大芦治，坂井明子 1999 日本版 Buss-Perry 攻撃性質問紙（BAQ）の作成と妥当性，信頼性の検討　心理学研究，79，5，384-392.

<1998 年>
48.山崎勝之，宮田洋　1998 タイプＡ性格における競争性構成要素の発達　タイプＡ，1998，9，1，59-56.
47.Yamasaki, K. The effects of social support on depression in Type A or hostile individuals.　Research Bulletin of Educational Sciences (Naruto University of

Education), 1998, 13, 1-5.

<1997 年>

46.Fukunishi, I., Kaji, N., Yamasaki, K. Can scores on alexithymia dis tinguish patients with peptic ulcer and erosive gastritis? Psychological Reports, 1997, 80, 5, 995-1004.

45.早野順一郎，木村一博，保坂隆，柴田仁太郎，福西勇夫，山崎勝之，桃生寛和　日本人の coronary-prone behavior:　Scale C の抽出　タイプＡ，1997，8，1，39-45.

44.山崎勝之，山下文代 日本版児童用タイプＡ検査(MYTH)の作成　健康心理学研究，1997，10,2，21-30.

43.Hayano, J., Kimura, K., Hosaka, T., Shibata,N., Fukunishi,I., Yamasaki,K., Mono, H., Maeda, S. Coronary disease-prone behavior among Japanese men: Job-centered lifestyle and social dominance. American Heart Journal, 1997, 134, 6, 1029-1036.

<1996 年>

42.早野順一郎，木村一博，保坂隆，柴田仁太郎，福西勇夫，山崎勝之，堀礼子，前田俊彦，沼田裕一，殿岡祥子，桃生寛和 Japanese Coronary-prone Behavior Scale(JCBS)による日本的冠動脈疾患親和型行動パターンの検討　行動医学研究，1996，3，1,20-27.

41.山崎勝之 生活習慣に及ぼすタイプＡ特性の影響　行動医学研究，1996，3，1,28-35.

40.早野順一郎，木村一博，保坂隆，柴田仁太郎，福西勇夫，山崎勝之，堀礼子，前田俊彦，沼田裕一，殿岡幸子，桃生寛和　JCBS Scale A の妥当性　タイプＡ，1996，7，1，57-62.

39.早野順一郎，木村一博，保坂隆，柴田仁太郎，福西勇夫，山崎勝之，堀礼子，前田俊彦，沼田裕一，殿岡幸子，桃生寛和　日本人の coronary-prone behavior　－JCBS Scale A と冠動脈疾患の臨床的特徴－ タイプＡ，1996，7，1，63-70.

<1995 年>

38.山崎勝之　タイプＡ性格の形成過程　心理学評論，1995，38，1，1-24.

37.山崎勝之　タイプＡ行動と性格　－研究の現状と今後－ タイプＡ，1995，6，1，3-9.

36.河野浩，山崎勝之，宮田洋タイプＡ特性と生活習慣　タイプＡ，1995，6，1，51-56.

35.福西勇夫，山崎勝之，桃生寛和，早野順一郎，木村一博，保坂隆，柴田仁太郎，松本めぐみ 心筋梗塞患者の行動変容 －Japanese Coronary-prone Behavior(JCBS)の解析より－ タイプＡ，1995，6，1，97-100.

34.山崎勝之　日本版成人用タイプＡ検査（ＫＧ式日常生活質問紙）の構成概念的妥当性 大阪青山短期大学研究紀要，1995，20，1，29-44.

<1994 年>

33.Yamasaki, K. Similarities in Type A behavior between young children and their parents in Japan. Psychological Reports, 1994, 74, 2, 347-350.

32.山崎勝之 タイプＡ幼児の競争性　－対人競争場面における課題遂行－　大阪青山短期大学研究紀要，1994，20，1，39-46.

31.山崎勝之　タイプＡ特性の形成に関する心理学的研究　博士学位（文学）論文 ，1994 198 頁（関西学院大学）
30.木村一博，松本めぐみ，早野順一郎，桃生寛和，柴田仁太郎，保坂隆，山崎勝之，福西勇夫 Japanese Coronary-prone Behavior －JCBS 多施設共同研究報告－　タイプＡ，1994，5，1，49-56.
29.福西勇夫，山崎勝之，桃生寛和，早野順一郎，木村一博，保坂隆，柴田仁太郎，松本めぐみ　JCBS の基礎データ　タイプＡ，1994，5，1，57-63.
28.山崎勝之　幼児期におけるタイプＡ特性と親の養育態度　タイプＡ，1994，5，1，91-98.

〈1993 年〉
27.山崎勝之，時田学，鈴木隆男，山田冨美雄　児童期におけるビデオゲームの使用とタイプＡ特性との関係　大阪青山短期大学研究紀要，1993，19，1，125-132.
26.山崎勝之，呉凧玲，田中雄治，宮田洋　タイプＡ者の攻撃性　－P-F スタディを用いて－　タイプＡ，1993，4，1，60-66.

〈1992 年〉
25.山崎勝之　日本版幼児用 Type A 検査（MYTH）　－標準化の過程と実施・採点方法－　タイプＡ，1992，3，1，15-23.
24.山崎勝之　日本版成人用タイプＡ質問紙（ＫＧ式日常生活質問紙）　－標準化の過程と実施・採点方法－　タイプＡ，1992，3，1，33-45.
23.田中雄治，中田すみ，山崎勝之，高田和美，宮田洋　某企業従業員における Type A の分布　－ＫＧ式日常生活質問紙による TypeA 判別－ タイプＡ，1992，3，1，68-73.
22.山崎勝之，菊野春雄　幼児の Type A 特性と分類基準　－日本語版 MYTH 検査を用いて－ タイプＡ，1992，3，1，89-93.
21.山崎勝之　幼児のタイプＡ特性と要求水準 －要求水準の基本的特徴とリスクテイキングならびに競争事態におけるその変化－ 心理学研究，1992，63，1,51-54.
20.山崎勝之　幼児の Type A 特性ときょうだい構成　大阪青山短期大学研究紀要，1992，18，1，105-119.

〈1991 年〉
19.山崎勝之　Type A 者の心理・行動特性と生理反応　大阪青山短期大学研究紀要，1991，17，1，1-13.

〈1990 年〉
18.山崎勝之，菊野春雄　日本語版幼児用 Type A 検査（MYTH）の作成　心理学研究，1990，61，3,155-161.
17.山崎勝之，田中雄治，宮田洋　日本版成人用 Type A 測定検査の作成　－質問項目の決定に関する予備的研究－　大阪青山短期大学研究紀要，1990，16，1，49-70.
16.Yamasaki，K.　Parental child-rearing attitudes associated with Type A behaviors

in children. Psychological Reports, 1990, 67, 1, 235-239.
15.山田冨美雄，田多英興，島井哲志，増田公男，時田学，松田俊，鈴木隆男，福田恭介，山崎勝之，川本正純，藤川治，田中衛，和田清吉　子供の健康とコンピュータに関する調査（第１報）　－調査のあらましとコンピュータの利用の現状－　関西鍼灸短期大学年報，1990，6，1，62-78.

〈1989 年〉
14.山崎勝之　Type A 行動の測定法　大阪青山短期大学研究紀要，1989，15，1，75-91.

〈1988 年〉
13.山崎勝之　時間評価に及ぼす時間的展望の影響　大阪青山短期大学研究紀要，1988，14，1，9-19.

〈1987 年〉
12.山崎勝之　時間評価の学習に関する発達的研究　大阪青山短期大学研究紀要，1987，13，1，25-35.
11.山崎勝之　ヒトの驚愕反応に及ぼす不安の効果　大阪青山短期大学研究紀要，1987，13，1，37-42.

〈1985 年〉
10.山崎勝之　慣用的時間システムにおける発達的研究　　大阪青山短期大学研究紀要，1985，12，1，323-335.

〈1984 年〉
9.山崎勝之，宮田洋　時間評価の発達　－幼児と成人における時間評価の比較－　人文論究，1984，34，1，　89-111.

〈1983 年〉
8.内藤徹，山崎勝之，宮田洋　時間評価の発達的研究：子どもの時間評価に影響を及ぼす諸要因　金城学院大学論集人間科学編，1983，9，3，63-74.

〈1982 年〉
7.山崎勝之，宮田洋　驚愕性瞬目反射におよぼす先行刺激促進効果　－ＨＲならびに骨格筋諸反応の変容についての分析－　心理学研究，1982，52，6,354-358.
6.Yamasaki, K., Miyata,Y.Facilitation of human startle eyeblink responses by pure-tone background stimulation. Japanese Psychological Research, 1982, 24, 3, 161-164.

〈1981 年〉
5.Yamasaki, K., Miyata,Y.An investigation of voluntary responses in human classical

eyelid conditioning. Psychologia, 1981, 24, 3, 146-156.
4.山崎勝之，宮田洋嫌悪刺激の制御におよぼす信号の効果　心理学研究，1980, 51, 1,25-32.
3.Yamasaki, K., Yamada, F., Miyata, Y. The effects of signalling upon control of an aversive stimulus: A study of the signal properties. Japanese Psychological Research, 1980, 22, 3, 125-133.
2.Yamada, F., Yamasaki, K., Nakayama, M., Miyata, Y. Distribution of eyeblink amplitudes recorded by an electrode hookup:Re-examination.Perceptual and Motor Skills, 1980, 51, 5, 1283-1287.

〈1979年〉
1.Yamada, F., Yamasaki, K., Miyata, Y. Lead-stimulation effects on human startle eyeblink recorded by an electrode hookup. Japanese Psychological Research, 1979, 21, 4, 174-180.